

〔風流使者記〕益右而農鳥、農牛二山、鳳凰地藏、巨摩諸岳、次第環匝、以與金峯相接、略中

巖然乎二農之上者、白嶺也、望之稜々乎可畏、似窮髮之地、每冬先雪、以其無草木、尤爲皎然無玷、故得名云、風人之咏藉甚今古、

白嶺橫連臥遠曠、莊添月色口難分、歸鞭早晚雞鳴後、欲採國風報我君、

茂卿

誰聳白嶺插雲漢、遙照仙人十二樓、不惜餘輝映征袂、行過十里尙回頭、

省吾

〔甲陽軍鑑十九品第五十三〕黑駒開關之願狀

日本有山名富士、其山峻三面是海、一朶上聳頂有煙、日中上有諸寶流、下夜即郊上常聞音樂、古來六月上此山不<sub>レ</sub>會有女人得上、至今男子欲上、三月斷酒肉欲色、所求皆遂云、因茲關東關西之人無不競望、古人云、雖跨三州過半吾甲陽之山也、處今韶陽之一字、透得者希、自天正丁丑拔却黑駒關鍵、而不得往來、通車馬、是太平得路之謂乎、伏冀以這開關力、忠勇馳八極、武威傾九州、而掌上舞天下、量外致太平者、算日俟之至、祝至禱、稽首敬白、

奉納富士神前 天正丁丑季夏六日

勝賴

〔諸州奇跡談上〕甲斐國

同國富士山、是は古歌にも駿河の不二と詠じ、又世俗にもするがのふじとのみ、心得たるなれども、もと此山は甲州の山なるべし、其故いかんとなれば、甲州上吉田村表口に、三國第一山と勅額かゝり有也、鳥居の高サ四丈三尺也、駿河村山口より大刀三振、青指三貫文を、甲州郡内の御代官陣屋へ年ごとに上納せしと也、これは駿河のふじといわせまじき爲にや、其始を玄らず、當御代吉宗將軍、彼大刀三振の代りに小刀三本、青指三貫文の代りに、青銅三百文上納すべきむねを命ぜらるゝ、有がたき御仁政なり、又駿河大納言様、富士山の道のりを改めさせられしに其節も甲州吉田村大鳥居より、山上道法三百五拾七町十七間ありと云、古來は吉田より參詣のもの多く